

柳沢公民館 柳沢1-15-1 ☎042-464-8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp
田無公民館 休館中、問い合わせは柳沢公民館へ tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp
芝久保公民館 芝久保町5-4-48 ☎042-461-9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp

谷戸公民館 谷戸町1-17-2 ☎042-421-3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 ☎042-424-3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
保谷駅前公民館 東町3-14-30 ☎042-421-1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp

コロナ禍で動き出す若者たち

オンライン授業、部活の禁止、バイトの打ち切り、ステイホーム……。

触れ合う機会から閉ざされた若者たちは、

コロナ禍で何を考え、どう動いたのか……。



きっかけは高3の時の授業で、自分で社会問題を探して学習するという課題があつて、子どもの貧困問題を取り上げて勉強したのが最初です。パントリーで実際に子どもやお母さんたちに触れて、本当に助けを必要としている人が沢山いるんだという事が分かり驚きました。そして「ありがとう」と声を掛けられる度に、自分がエネルギーをもらっていることに気付いていききました。小中学校は上海で過ごしました。上海での子ども時代は、学校の登下校も含めて親に付き添ってもらい、地域で遊んだ経験

ゆいへの将来を決めたと思います



大澤昂歩さん(18)
豊島区出身
大学1年生

公民館の講座から生まれたサークル「西東京わいわいネット」が、昨年10月から今年6月末まで田無駅南口で行っていたフードパントリー(ひとり親や生活に困っている人に食料を無料で配布するための事業活動の詳細は公民館だより第237号を参照)その利用者は延べ4847人にのぼりました。利用者アンケートには「私はシングルマザーで子どもが2人います。コロナの影響もあり仕事ができない状況の中、いろいろな食材をいただけるとも助かりました」「毎回子どもが楽しみにしています。こんな状況で普段なかなか楽しみを作ってあげられないので、本当に感謝しております」「家計と共に精神的にも救われました。お手伝いの学生さんたち、ありがとう」「」など感謝の声が沢山寄せられました。この活動に参加した若者たちがいます。参加のきっかけや今思うことを聞いてみました。

いのです。パントリーに参加してからは、地元の人たちの知り合いが増え、いろんな人に出会えたことも喜びです。今の日本は、お金がある人は成功する機会が設けられているけど、お金のない人には助ける制度が不十分だと思います。社会の風潮としても自己責任とかが大きいので、生きづらい社会になっていっていると感じています。私は理系なので、教育や福祉について専門的には学んでいません。でも、こうした活動に関わったことで幅広く学んでみたいと思うようになっていました。大学の4年間、いろんな授業を取って、ゆいへの将来を決めた。今は思っています。

ゆいへの将来を決めたと思います

社会について見えたものもありました



小島裕貴さん(20)
西東京市出身
大学2年生

コロナで大学に行けない状況もあつて、人と話す機会もないので、人の役に立つことがしたいと思つて参加しました。コロナで自分もふさぎ込みそうになっていたので、子どもたちと話せて、こつちが救われたと思います。アンケートを見てうれしかったです。困っている人を目の当たりにして、自分の無力を感じていたけど、何かしなやかという気になりました。参加することで社会について見えてきたことも

ありました。今の社会は、ジェンダーや育休などを見るの良い方向に向かっていると思います。でもそう言うところから、ごぼれちゃう人がいる。そういう人にもやさしい社会とは言えないと思います。ホームレスの問題、不登校、アファガニスタンの問題、日本の難民受け入れとか、自分はどうアプローチするべきか悩んでいます。今回の経験を通して、僕がひとりの人の全てを引き受けて幸せにすることはできないけど、いろんな人が少しずつ支援することで、その人を幸せにすることは可能ではないかと考えるようになりました。

アンケートを見て安心しました



藤田颯斗さん(21)
山口県美祿市出身
大学3年生

たまたま田無駅の南口を散歩していたらパントリー会場のシャッターにポスターが貼つてあつて、見ていたらスタッフの人に「やらない？」と声をかけられたのがきっかけです。もともと子どもの貧困の支援にとても関心があつて、児童養護施設でバイトもやっていた。2年生になると

コロナで部活動は中止、授業もオンラインになりました。でも同じ大学で一人暮らしをしている友達と集まってバドミントンやフットサルをしたり、日ごろ付き合っていない友達とも遊ぶようになったりして、逆に交友範囲が広がりました。フードパントリーの活動はとても楽しくて、アンケートを見るまでは「自分たちが楽しんでいるだけじゃないのか」とちょっと不安でした。でも本当に喜んでもらっていたことが分かってうれしかったです。将来は地元に戻って

この仲間はずっとつながっていたい



ヒロア・ユリアさん(25)
モスクワ生まれ
会社員

モスクワ大学の大学院では、日本の幕末の国防について勉強しました。卒業して早稲田大学の研究生となり田無寮で暮らしていました。日本での就職活動は本当に大変で、20社以上にエントリーしましたが受かったのはユニクロと岐阜県の会社の2社でした。9月からユニクロに就職しています。落ち込むこともいっぱいありましたが、そんな時、寮に帰る途中の道でパントリーに出会いました。スタッフの方

たちと話すうちに元氣になりました。これからは日本での生活は不安でいっぱいですが、でもこの仲間はずっとつながっていたいです。将来は国と国の架け橋になりたいと思っています。

終わりに

4人の話に共通していたのは、フードパントリーの活動が本当に楽しかったこと、そして支援しているつもりが、逆に来てくれた人たちがエネルギーをもらったり救われたり、こちらが喜びを感じたと語ったことでした。これから何かの形で続けていきたいと考えていることも同じでした。

一方で、若者たちがこのような機会を得て考え学んだ裏には、そうした場をつくり運営している大人たちがいます。そんな場が沢山あるまちは、困難に強く人にやさしいまちになれるのではないかと思います。公民館もそんな場所でありたいと思います。